

新型コロナウイルス

ー現在までにわかっていることー

春日井市民病院 呼吸器科

部長 山本 俊信

2009年4月にメキシコで発生した新型インフルエンザ（ブタ由来A/H1N1インフルエンザS.O.I.V）は世界的に拡大し、6月12日には世界保健機構（WHO）は、「パンデミック」を意味する警戒度



「フェーズ6」とし、世界的なまん延状態であるとの宣言を行いました。日本の新型コロナウイルス対策は、高病原性鳥インフルエンザ（A/H5N1）のヒトへの感染拡大を想定してガイドラインが策定されていたため、当初は、検疫、措置入院、発熱外来などがおこなわれ、医療現場は混乱しました。その後6月時点で5000人、7月末時点で

5000人を超える遺伝子検査（PCR）による確定患者の報告があり、7月24日には「改正省令」が施行されより現実的な対応に変更されています。

今回の新型コロナウイルスは「高齢者の罹患率が低いのか?」「夏季に流行する理由?」などまだ不明な点も多いのですが、現在までにわかっている事実を正確に理解することで不要な不安をなくし、冷静な対応をしていただけるよう、現在までにわかっていることをお知らせします。

新型コロナウイルスの症状

新型コロナウイルスの症状は、季節性インフルエンザの症状と変わりませんが、悪心、嘔吐、下痢などの消化器症状を呈する例が比較的多くみられました。

また、発症は高校生を中心とした若年者が多く、高齢者には少ない特徴がありますが、その一因として、60歳以上の33%に、新型コロナウイルスに対する免疫が存在しているとの報告もあります。

新型コロナウイルスの重症例

歴史的な大流行で最も有名な1918年の「スペイン風邪」では、全世界で5〜6億人のヒトが罹患し、数百万〜数千万人が死亡したとされています。このときの死亡者は高齢者ばかりではなく比較的健康的な多くの若年者も命を落としたことが明らかとなっており、今後の動向に注意する必要があります。

現時点での、わが国における死亡者は基礎疾患をもつ比較的高齢者を中心に報告されており、7月上旬から10月25日までの患者数は推定431万人。期間中の死者は33人で、死亡率は0.001%以下にとどまっています。海外に比べ死亡率が低いことについて厚労省は「医療体制が整い、患者に速やかに治療が行われるためではないか」と分析しています。

基礎疾患、妊婦、肥満などの重症化のリスクを有する患者さんは、早期の医療機関への受診が重要です。